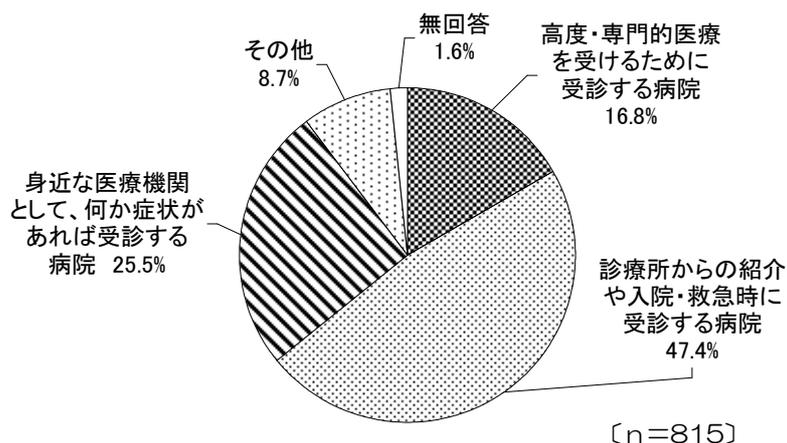


1.2 保健・健康

(1) 市立病院のイメージ (A: 問9)

問. 市立病院に対するあなたがお持ちのイメージについて、近いものを選んでください。
(1つだけ)

図 12-1-1 市立病院のイメージ



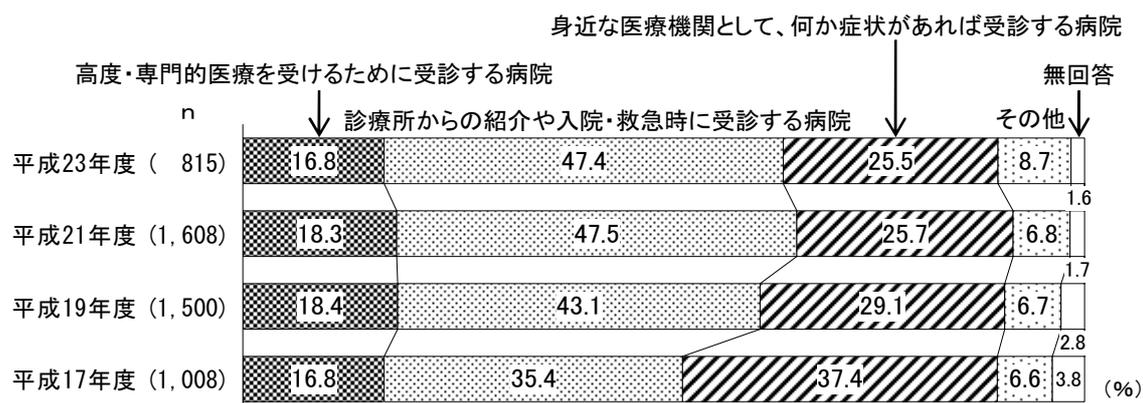
【全体】

市立病院に対して持っているイメージを聞いたところ、「診療所からの紹介や入院・救急時に受診する病院」(47.4%)が5割近くで最も高く、「身近な医療機関として、何か症状があれば受診する病院」(25.5%)が2割半ば、「高度・専門的医療を受けるために受診する病院」(16.8%)が2割近くとなっている。

【経年変化】

前回調査、前々回調査、前々々回調査との比較をみると、増加傾向にあった「診療所からの紹介や入院・救急時に受診する病院」、減少傾向にあった「身近な医療機関として、何か症状があれば受診する病院」がともに前回調査と同じ傾向になっている。

図 12-1-2 市立病院のイメージ経年変化

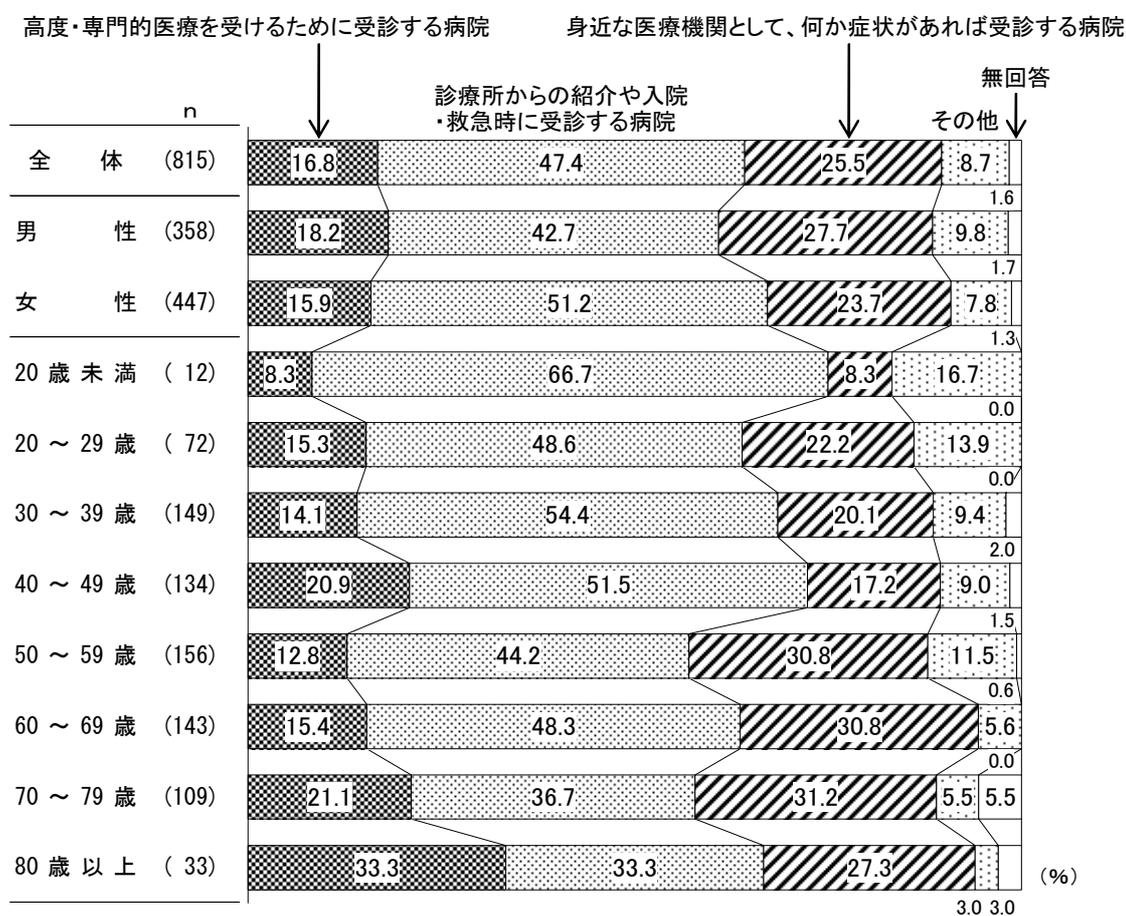


【属性別】

性別にみると、女性で「診療所からの紹介や入院・救急時に受診する病院」（51.2%）が男性より8.5ポイント高くなっている。一方、男性で「身近な医療機関として、何か症状があれば受診する病院」（27.7%）が女性より4.0ポイント高くなっている。

年齢別にみると、80歳以上で「高度・専門的医療を受けるために受診する病院」（33.3%）が3割を超え他の年代より高くなっている。また、30歳代で「診療所からの紹介や入院・救急時に受診する病院」（54.4%）が5割半ばで他の年代より高くなっている。

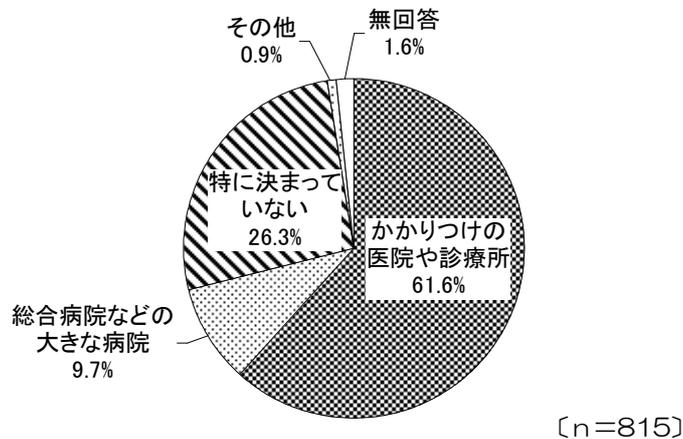
図 12-1-3 市立病院のイメージ—性別、年齢別



(2) 身近な医療機関 (A: 問7)

問. かぜなどにかかった時、通院する病院は決まっていますか。(1つだけ)

図 12-2-1 身近な医療機関



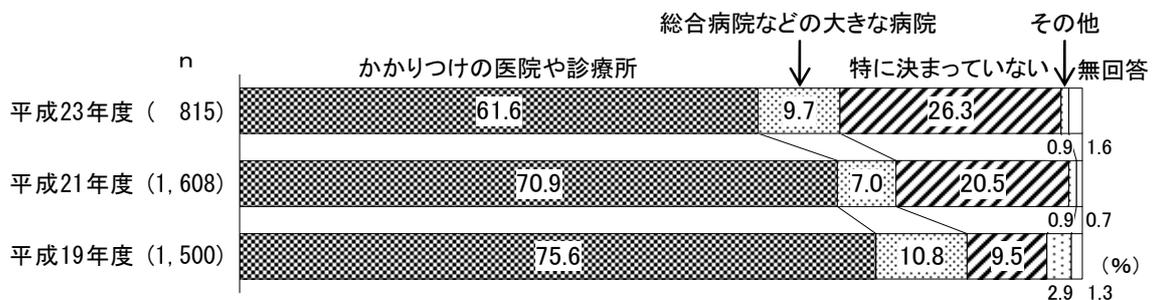
【全体】

かぜなどにかかった時、通院する病院は決まっているか聞いたところ、「かかりつけの医院や診療所」(61.6%)が6割を超え最も高くなっている。他には、「総合病院などの大きな病院」(9.7%)、「特に決まっていない」(26.3%)となっている。

【経年変化】

前回調査、前々回調査との比較をみると、「かかりつけの医院や診療所」が減少傾向にあり、前回調査より 9.3 ポイント低くなっている。一方、「特に決まっていない」が増加傾向にあり、前回調査より 5.8 ポイント高くなっている。

図 12-2-2 身近な医療機関—経年変化

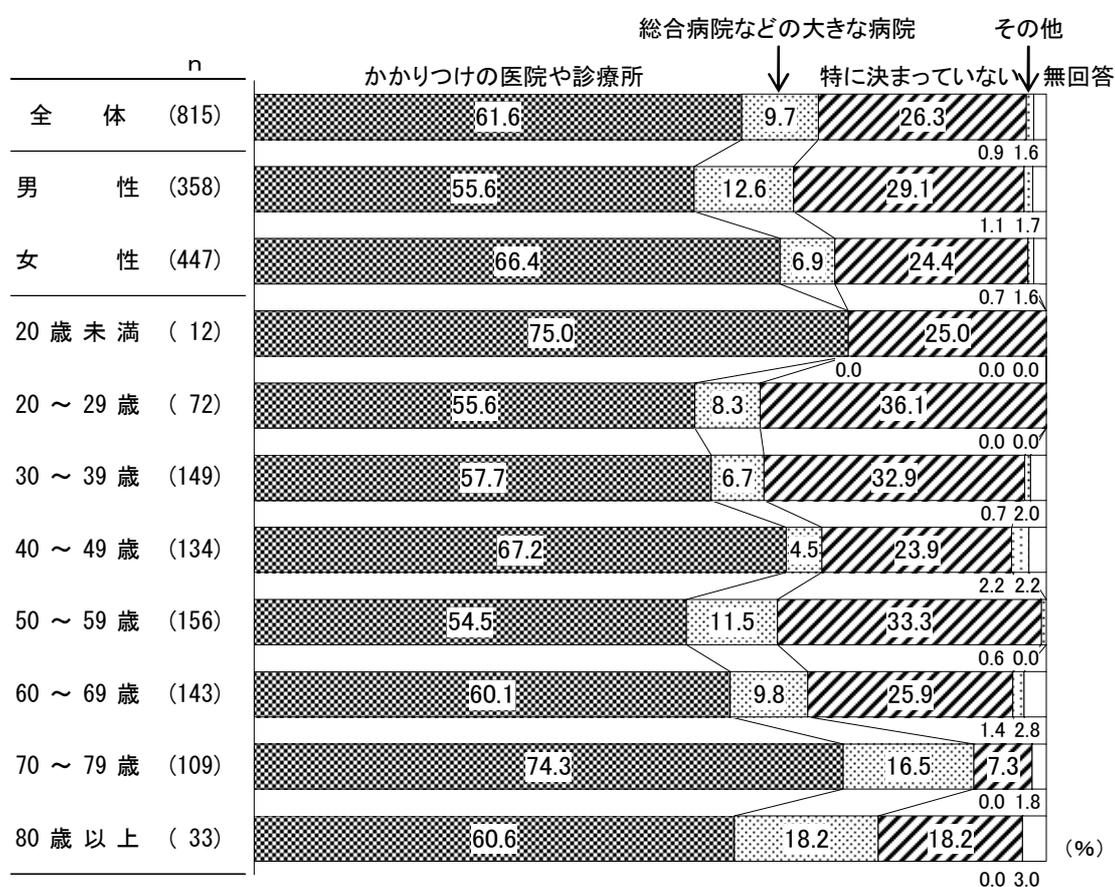


【属性別】

性別にみると、女性で「かかりつけの医院や診療所」（66.4%）が男性より 10.8 ポイント高くなっている。一方、男性で「総合病院などの大きな病院」（12.6%）が女性より 5.7 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、70 歳代で「かかりつけの医院や診療所」（74.3%）が7割半ばで他の年代より高くなっている。一方、20 歳代で「特に決まっていない」（36.1%）が3割半ばで他の年代より高くなっている。

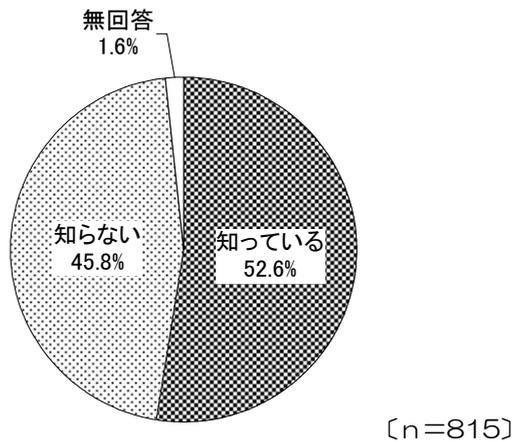
図 12-2-3 身近な医療機関—性別、年齢別



(3) 医療機関の役割分担 (A：問8)

問. かかりつけ医（主に医院や診療所など）は日ごろから医療や健康相談を受け持ち、病院は入院の必要な患者を受け持つという役割分担があることを知っていますか。
（1つだけ）

図 12-3-1 医療機関の役割分担



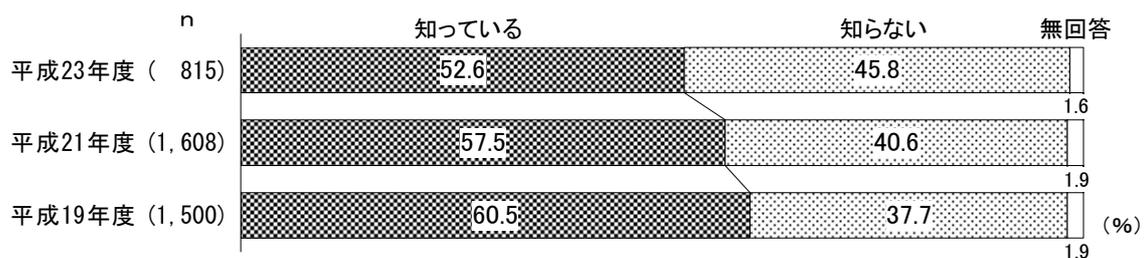
【全体】

かかりつけ医（主に医院や診療所など）は日ごろから医療や健康相談を受け持ち、病院は入院の必要な患者を受け持つという役割分担があることを知っているか聞いたところ、「知っている」（52.6%）が5割を超え、「知らない」（45.8%）が4割半ばとなっている。

【経年変化】

前回調査、前々回調査との比較をみると、「知っている」が減少傾向にあり、前回調査より4.9ポイント低くなっている。一方、「知らない」が増加傾向にあり、前回調査より5.2ポイント高くなっている。

図 12-3-2 医療機関の役割分担—経年変化

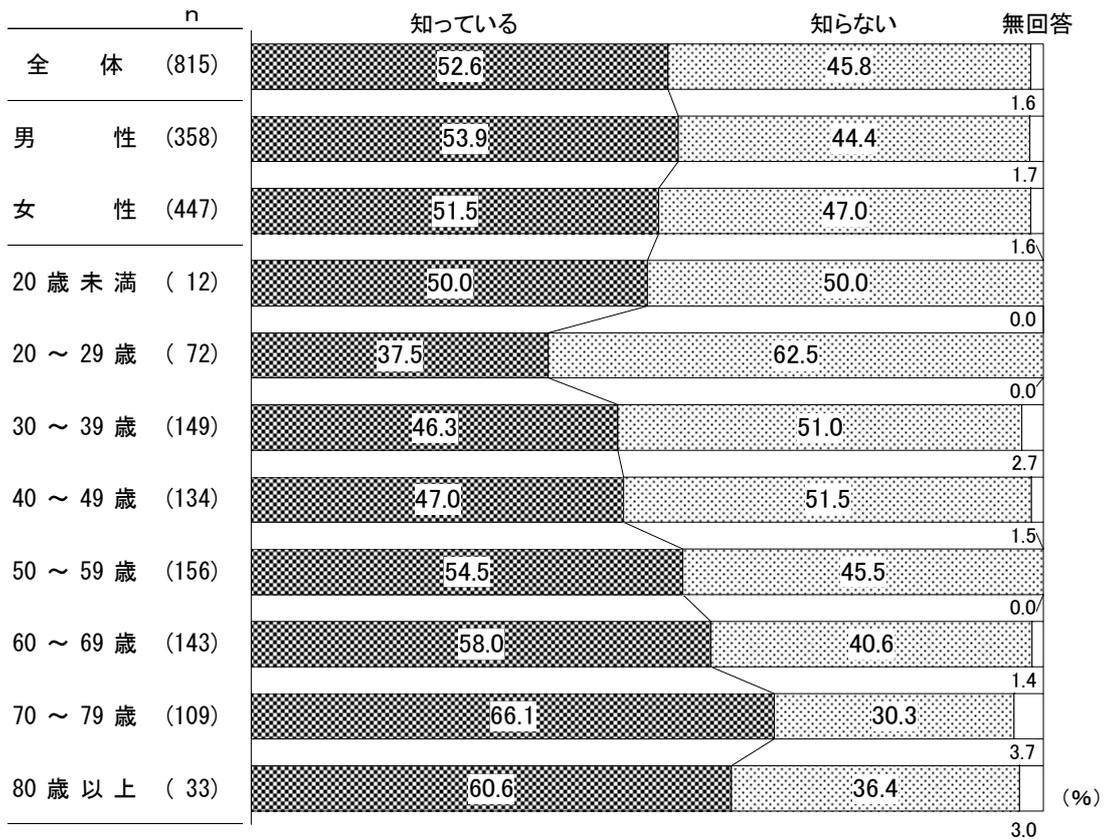


【属性別】

性別にみると、男女ともほぼ同じ傾向になっている。

年齢別にみると、70 歳代以上で「知っている」が6割以上で、おおむね年代が高くなるにつれて占める割合が高くなる傾向にある。一方、「知らない」は 20 歳代（62.5%）が6割を超え他の年代より高くなっている。

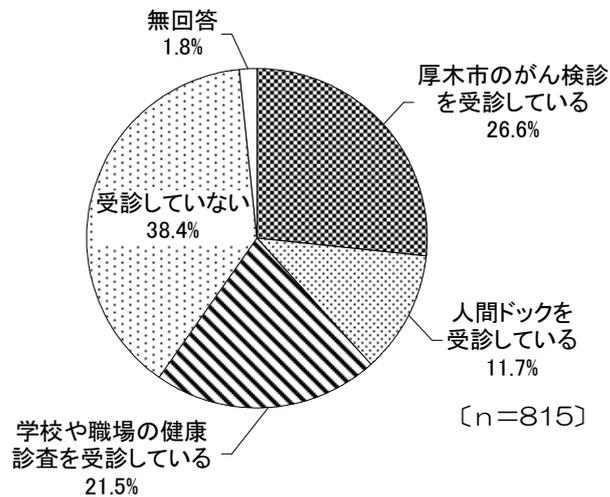
図 12-3-3 医療機関の役割分担—性別、年齢別



(4) がん検診の受診状況 (A: 問 10)

問. あなたは、なんらかのがん検診を受診していますか。(主なものを1つだけ)

図 12-4-1 がん検診の受診状況



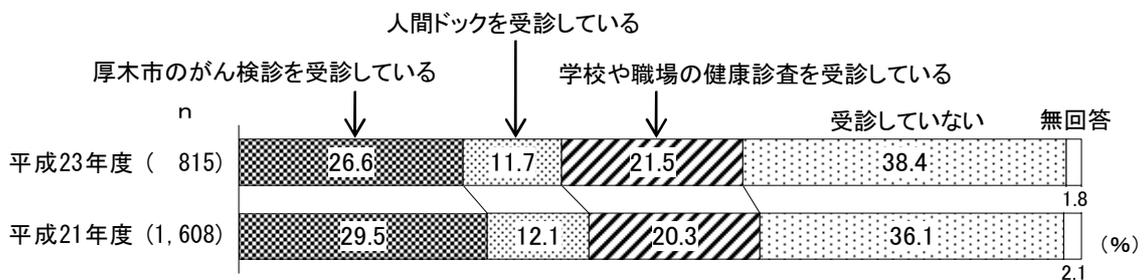
【全体】

がん検診の受診状況について聞いたところ、「厚木市のがん検診を受診している」(26.6%)が3割近くで最も高く、「学校や職場の健康診査を受診している」(21.5%)が2割を超え、「人間ドックを受診している」(11.7%)が1割を超えている。一方、「受診していない」(38.4%)が4割近くとなっている。

【経年変化】

経年による大きな差異はみられない。

図 12-4-2 がん検診の受診状況—経年変化

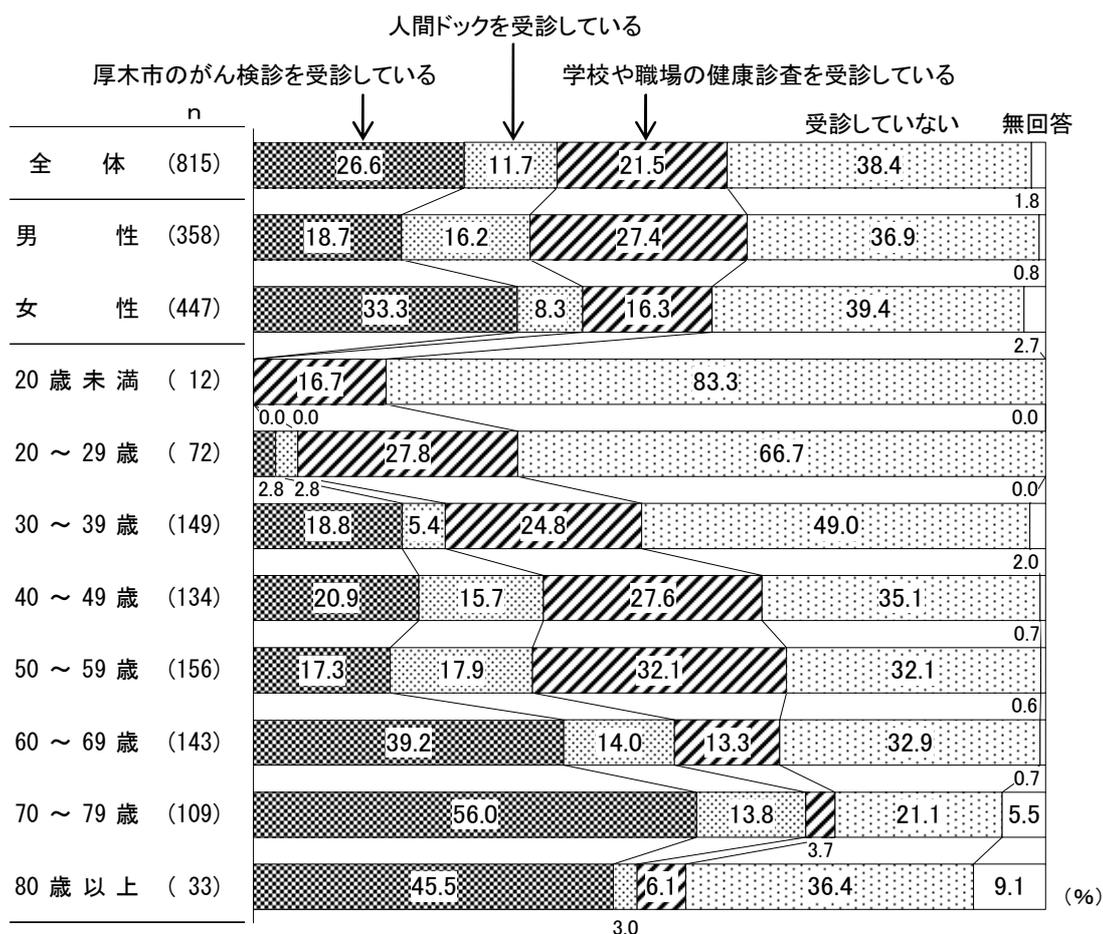


【属性別】

性別にみると、女性で「厚木市のがん検診を受診している」(33.3%)が男性より14.6ポイント高くなっている。一方、男性で「学校や職場の健康診査を受診している」(27.4%)が女性より11.1ポイント高く、「人間ドックを受診している」(16.2%)が女性より7.9ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「厚木市のがん検診を受診している」は70歳代(56.0%)が5割半ば、80歳以上(45.5%)が4割半ば、60歳代(39.2%)がほぼ4割で他の年代より高くなっている。また、50歳代で「人間ドックを受診している」(17.9%)が2割近く、「学校や職場の健康診査を受診している」(32.1%)が3割を超え他の年代より高くなっている。一方、20歳未満で「受診していない」(83.3%)が8割を超え、おおむね年代が低くなるにつれて占める割合が高くなる傾向にある。

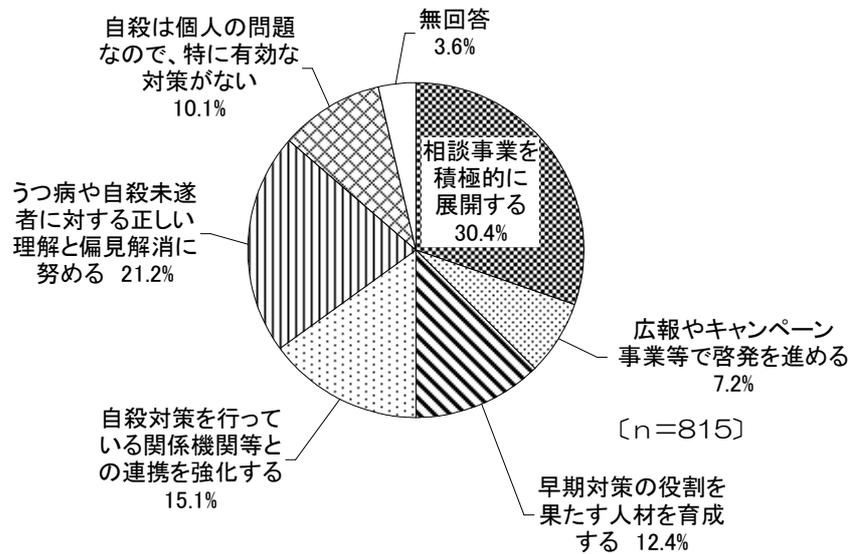
図 12-4-3 がん検診の受診状況—性別、年齢別



(5) 自殺への対策（A：問 11）

問. 自殺で亡くなる方は全国で年間3万人を超え、厚木市でも少なくありません。
このことに対して、どのような対策が重要だと思いますか。（1つだけ）

図 12-5-1 自殺への対策



【全体】

自殺への対策について聞いたところ、「相談事業を積極的に展開する」（30.4%）が3割で最も高くなっている。次いで、「うつ病や自殺未遂者に対する正しい理解と偏見解消に努める」（21.2%）、「自殺対策を行っている関係機関等との連携を強化する」（15.1%）となっている。

【経年変化】

新規設問のため、経年変化はなし。

【属性別】

性別にみると、女性で「自殺対策を行っている関係機関等との連携を強化する」（17.9%）が男性より6.2ポイント高くなっている。一方、男性で「相談事業を積極的に展開する」（32.7%）が女性より4.1ポイント高くなっている。

年齢別にみると、30歳代で「うつ病や自殺未遂者に対する正しい理解と偏見解消に努める」（27.5%）が3割近くで他の年代より高くなっている。

図 12-5-2 自殺への対策—性別、年齢別

